郷土学ぶきっかけに

玖珠町教育委 児童向け副読本

久留島武彦の生涯紹介

久留島武彦の生涯などを紹介する副読本を発行。4月中に町内の小学4～6年生らに配布される予定＝玖珠町役場

玖珠町教育委員会は、町の偉人で口演童話家・児童文学者として活躍した久留島武彦（1874～1960年）の生涯や功績を紹介する副読本を作った。生き方や「信じ合い、助け合い、違いを認め合う」ことを教えた久留島精神を学んでもらい、郷土に誇りを持てる子どもを育成していくことを目指している。

町教委によると、2012年ごろから児童向けの教材を作りたいと考え、準備を進めた。昨年春、博物館と研究所の機能を持つ久留島武彦記念館が開館すると、本格的に着手。同年末、町内7小学校などで構成する編さん委員会を設置した。

A4フルカラー17ページ。小学生で習う漢字のみを使ったほか、ルビを振るなど児童でも理解しやすいようにした。久留島の年譜や児童教育を目指し始めたきっかけ、著作した絵本の概要と込められたメッセージなどを紹介している。

4月中に小学4～6年の児童と、小中学校の教職員に配布する予定で、19年度以降は新4年生のみに配布する計画。社会科や総合的な学習の時間などで活用してもらうことを想定している。千部を発行した。事業費は約30万円。

3月下旬、町役場で発表会があり、宿利政和町長、秋吉徹成町教育長、久留島武彦記念館の金成妍館長が出席した。宿利町長は「子どもたちが郷土を学び、愛し、誇りに思うきっかけとなればうれしい」と話した。

（白石宗史）

「やばけい」の未来語り合おう

14日、玖珠町でスタートアップ会議

チラシを手に参加を呼び掛け。参加者の募集は11日まで

第2回「やばけい」みらいスタートアップ会議が14日午後3時から、玖珠町の豊後森機関庫公園である。「やばけい遊覧」（玖珠町、中津市）の日本遺産認定を契機に、地域のブランド化に向けて官民一体で機運を高めるのが目的。11日まで参加者を募集している。

両市町などで構成する中津玖珠日本遺産推進協議会（会長・奥塚正典中津市長）の主催。3月に中津市であった第1回会議には約100人が参加。「やばけい」の魅力を議論した。

今回のテーマは「これからを語り合う」。4人程度の班に分かれ、これから両市町がどうなってほしいか、どんな故郷の姿を目指していくのかなどについて自由に話し合う。

町内外の小学生以上なら誰でも無料で参加できる。定員は100人（先着順）。希望者は事務局（町教委社会教育課文化財係）に電話で申し込む。人数に余裕があれば当日参加もできる。雨天時は近くのくすまちメルサンホールで開く。

同協議会は「幅広い年齢層の人と話すことで、新たな視点を知ることができると思う。一人一人ができることを考えるきっかけにしてほしい」としている。

申し込み、問い合わせは事務局（☎0973・72・7151）へ。